

今日の説教のポイント <マタイによる福音書 10 章 16～25 節>

① どんな試練も、この神様となら立ち向かって行ける！

イエス様が、これから派遣する弟子たちの受ける迫害について語られている箇所です。迫害は実際に起こりました。しかし、弟子たちは迫害を受けることを告げられてもひるみませんでした。なぜでしょうか？ 続く次の箇所が大事です。「人々を恐れてはならない。～むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を畏れなさい。～あなたがたは（この神様にとって）、たくさんの雀よりもはるかにまさっている！」(26～31)。弟子たちは本当に恐れるべきもの、真の神様を知ったのです。そして、このイエス様の言葉から分かるように、この神様は私たちを愛してやまない神様なのですから、「恐れるべき」と言うよりは「畏れるべき」神様なのです。イエス様はそのことを伝えるために来られたお方です。私たちも聖書を通してこのことを知らされて行くときに、この神様以外の何も恐れなくなれるのです！

② 心配も神様に委ねる！ 成らぬことは成らぬし、成ることは成る！

イエス様は、「捕らえられた時には、何をどう言おうか心配する必要はない。言うべきことは神様が教えて下さる」と言われました(19)。モーセが神様からの召しを受けた時、彼は「自分は口が重くて～」と拒み続けました。その時、神様はアロンを与えられました(出エジプト記 4 章 14 節)。神様はモーセの訥弁を雄弁に変える奇跡を起こされたのではありませんでした。大事なことは、何が起こっても、「神様は神様の仕方で私たちに道を用意して下さい」、そう信じて歩み続けるということです。そうすれば必ず、「ああ、神様はこのように用意して下さいなのだな」と思える時がやって来るのです！

③ イエス様の苦難を思って生きられることは幸いなこと！

イエス様は弟子たちに、自分への信仰のために肉親にさえ憎まれることがあるだろうと言われていました(21)。しかし同時に、弟子たちに殉教しろとも言われませんでした(23)。今日の箇所では、主を信じる者は主と同じ苦難を負うことを教えられます。しかし、主の苦難を負うことを覚悟して生きることは本当は幸いなことなのです。色んな苦難に遭うことを恐れなくなります。そして、その苦難の向こうに用意して下さいの神様の恵みにも出会えるからです。